

校内授業研究会(国語) 分科会報告

日にち：平成30年11月29日

場 所：会議室

○授業者の感想

・採用8年目の研修の年である。授業研究会に際して特別なことはしておらず、普段通りの授業であった。ご指導よろしくお願ひしたい。

○参観者の感想

・「友人の俳句を分析し、鑑賞力を高め、感性を豊かにする」ことができていた。数学などとは違って正解を求めるものではなく、お互いのよさを認め合っていた。穴埋めにしたところがよかった。ゼロから作らせることは考えなかったのか→今回はグループの人数の関係もあり穴埋めにした。時間があればゼロから作らせることもやってみたい。

・言葉遊びのような印象を受けた。知識がなくても入っていける。お互いの感想を聞いていることで表現力も高めあえる。クラスのムードもよく、助け合いがなされている。

・クラス経営のよさが出ている授業だった。俳句は難しいイメージだが、楽しそうであった。

・クラスの雰囲気よかった。一度も発表しない生徒もいたので、活躍の場があればよかった。少人数のグループにした理由を教えてほしい→他クラスの授業で思ったより発言が多く様々な意見がでたので少人数にした。人間関係も考慮した。

・作品を発表し感想を発表することで、聞く力もつくと感じた。授業では一問一答になりがちなので参考にしたい。発表者に説明をさせなかった理由を聞きたい→作品そのものを味わい、他の考えを聞くことで、作者自身も考えを深めることを大切にしたい。

・中3のときに担当していた生徒達がいた。授業に引き込む工夫が見られた。韻文の授業で大切なことが何かを押さえた授業をすべき。生徒自身が参加しているという意識を持たせるために、全部の班に板書させ、よいものを選ばせてもよかったのではないかと。中学でも俳句は作っている。既習事項を踏まえ、もっと上のレベルを求めても生徒は応えてくれると思う。

・生徒は表現力があると感じた。授業で生かしたい。本時の穴埋めの俳句は出典があるのか→「おーいお茶」の俳句などを参考にしている。グループ活動はよく行うか→読後の感想などで行うことが多い。

・俳句は難しいというイメージがあるが、今日のような授業を通して身近に感じられるかもしれない。他者の感想から新たな発見が生まれ、作者も鑑賞する側も感性が豊かになると思う。

・俳句をゼロから作ろうとすると構えてしまいがちだが、穴埋めにすることで敷居が低くなり、安心感が生まれるのではないか。昨年神戸で行われた国語の全国大会の講演の中に、季語を後から考えて俳句を完成するというワークショップがあった。それを見たときにも感じたが、穴埋めならば生徒にとっても入っていきやすいと思う。今回の虫食いには意図があったのか→それほど意図はなかった。

○指導助言及び感想（櫻田瑞子指導主事）

・よかった点

- (1) 安心して発言できる雰囲気がよい。
- (2) 「読む・聞く・話す」という言語活動が取り入れられている。
- (3) 生徒の発表の仕方が立派だった。

・改善すべき点

- (1) 学習の系統性はどうか。

小・中学校で学んだことを生かした授業になっているか。既習事項を踏まえた授業にするべきである。

- (2) この授業で身につけさせたい力は何か。

本時の目標を決めて、それに沿った展開になっていたか。また、「鑑賞力の高まり」は、どこで評価するのか。分析まで到っているのか。展開を明確にして振り返りをスムーズにするためにも、その時間に板書したことは消さずにすべて残しておきたい。

- (3) グループ活動の目的は明確か。

学習課題を明確にし、個で考えるべきところ（自分の考えを持つ）、グループで考えるべきところ（考えを深める）が明確になっているか。